

InstallScriptプロジェクトを使用した32bit・64bit 環境兼用インストーラーの作成方法 (※InstallShield 2012 Spring 以降)

注)このドキュメントは、InstallShield 2014 Premier Edition を基に作成しています。InstallShield 2014 以外のバージョンでは設定名などが異なる場合もあります。

概要

InstallScript 形式プロジェクトにて、32Bit・64Bit両方の環境に対応したインストーラーを作成する場合、32Bit環境用のモジュールを含む機能と64Bit環境用のモジュールを含む機能を作成して、特定の InstallScript コードを追加することで対応可能です。InstallShield ではバージョン 2012 Spring より、InstallScript プロジェクトについても、コンポーネントの設定によって 64bit 領域へのインストールが可能となりました。

この記事ではInstallScript 形式プロジェクトを使用して、32bit環境・64bit環境の両方に対応したインストーラーの作成する場合の手順について説明します。

A. 32bit用機能・64bit用機能の作成、およびコンポーネントの設定

32bit用のファイル・レジストリエントリを含む機能と64bit用のファイル・レジストリエントリを含む機能をそれぞれ作成します。

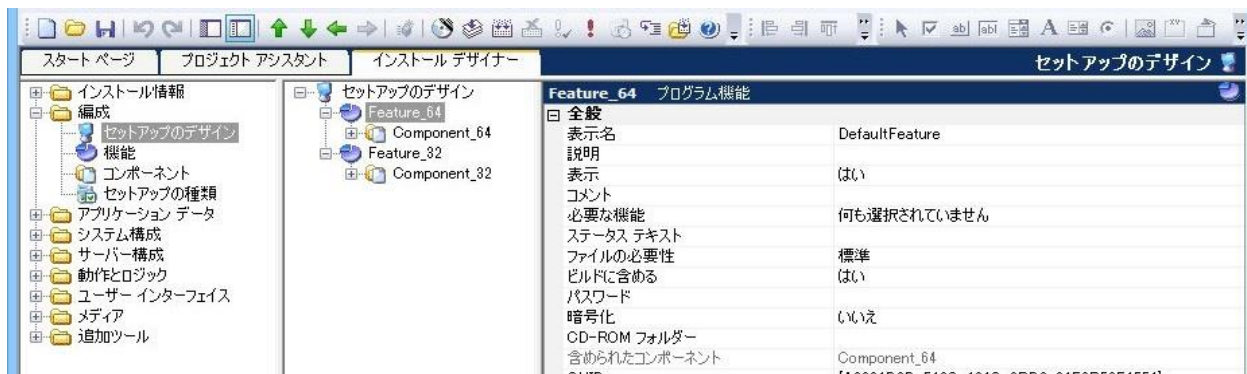
1. [編成] - [セットアップのデザイン]にて、既存の機能[DefaultFeature]とその配下のコンポーネント[DefaultComponent]をそれぞれ、[Feature_64][Component_64]とリネームします



2. コンポーネント[Component_64] を選択します。右のビューにて[64ビットコンポーネント]を「はい」に切り替えます

Component_64 コンポーネント	
全般	
インストール先	<TARGETDIR>
共有	いいえ
アンインストール	はい
言語	言語非依存
64 ビットコンポーネント	はい
自己登録	いいえ

3. 同ビューにて、[セットアップのデザイン]を右クリックして[新しい機能]を選択します。新規追加された機能の名称を [Feature_32]に変更します。機能 Feature_32 を右クリックして[新しいコンポーネント]を選択します。新規追加されたコンポーネントの名称を[Component_32]に変更します




4. コンポーネントを展開して[スタティック ファイルリンク]を選び、右のウィンドウにて Component_32 には 32bit 環境用のファイルを、Component_64 には 64 bit 環境用のファイルを含めます



※32bit用のファイルと64bit用のファイルが完全に同名であり、かつ同階層に転送を行う構成の場合、非圧縮形式としてビルドを行うとインストーラーに正しくファイルを含めることができません。この構成の場合は機能の [CD-ROM フォルダー]設定に任意の名称を設定してください。



5. 本件のサンプルでは、InstallScript によってターゲットOSを判定し、適切な機能を自動的に選択してインストールを行います。そのためこれら2つの機能 (Feature_32,Feature_64)に関しては、インストーラーのダイアログよりユーザが間違って選択を行ってしまわないように、機能の[表示]を[いいえ]に設定します



Feature_64 プログラム機能	
全般	
表示名	DefaultFeature
説明	
表示	いいえ
コメント	
必要な機能	何も選択されていません
ステータス テキスト	
ファイルの必要性	標準
ビルドに含める	はい
パスワード	
暗号化	いいえ
CD-ROM フォルダー	64bitFiles
含められたコンポーネント	Component_64
GUID	{C33D2856-9A32-49D4-87A3-A3C2A1EFD9F}

B. レジストリセットの作成

32bit 用・64bit 用のレジストリセットを作成して、各コンポーネントに割り当てます。

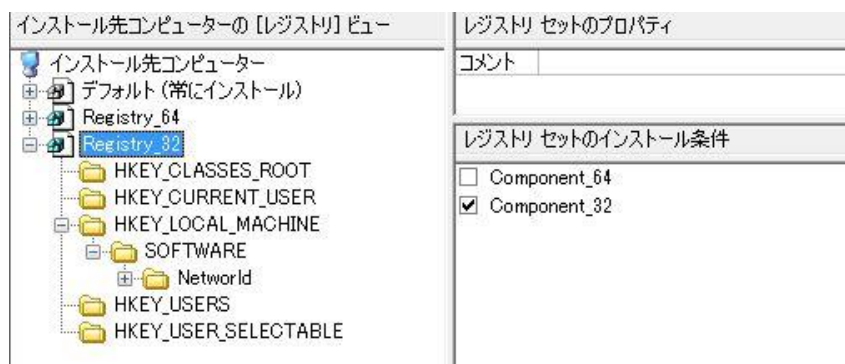
1. [システム構成]－[レジストリ]ビューにて、[インストール先のコンピュータ]を右クリックして[レジストリ セットの新規作成]を選択します。新規作成されたレジストリセットを選択します
2. 名称を[Registry_64]とリネームします。右のウィンドウ[レジストリ セットのインストール条件]にて、コンポーネント[Component_64]にのみ関連づけられるようにチェックをつけます



3. HKEY_LOCAL_MACHINE を右クリックして、[新規作成]－[キー]を選び 64 bit 環境のレジストリキーを追加します。作成されたキーを選択して、右側のウィンドウ[インストール先コンピュータのレジストリ データ]を右クリックします。[新しい文字列]等を選び任意のレジストリ値を追加します



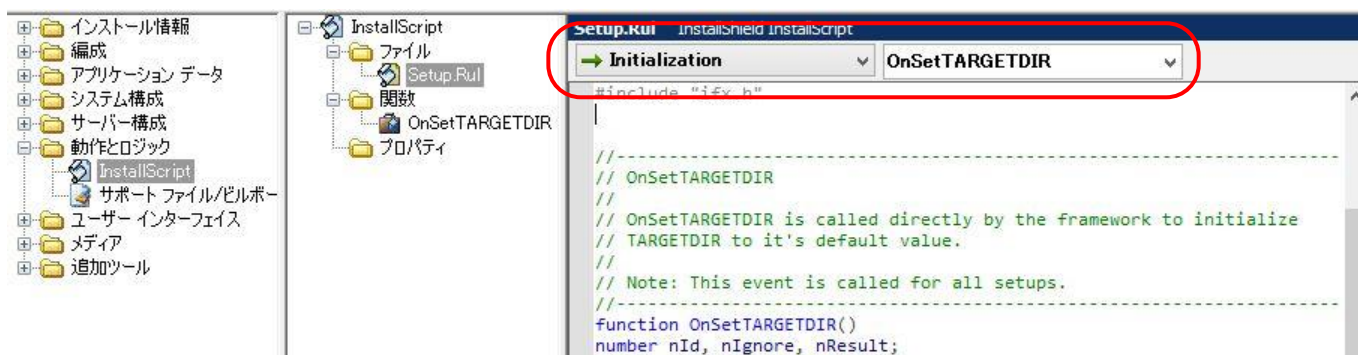
4. 上記の手順を繰り返して、32bit 用のレジストリセットを作成します。(セット名は Registry_32 とします)



C. TARGETDIRの動的切り替えを行う InstallScript コードの追加

実行環境に応じて、TARGETDIR のパスを動的に切り替えるためのコードを追加します

1. [動作とロジック]—[InstallScript]ビューにて、[Setup.Rul]を選択します。
2. スクリプトエディター 上部のコンボボックスを[Initialization]—[OnSetTARGETDIR]に切り替えて、OnSetTARGETDIR のコードを追加します



3. OnSetTARGETDIR に 以下のコードを追加します
(灰色の部分が追加箇所です)

```

:
:
:

// Use the TARGETDIR from the media if anything was read.
if( nResult >= ISERR_SUCCESS && StrLengthChars( szTARGETDIR ) ) then
    TARGETDIR = szTARGETDIR;
endif;

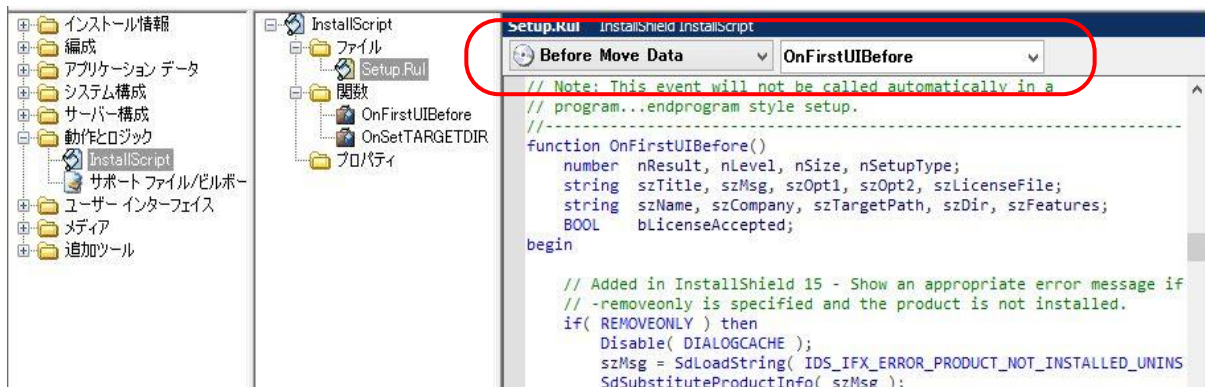
//***** 追加行
if ( SYSINFO.blbWow64 ) then
    //64bit 環境だった場合
    TARGETDIR = "<FOLDER_APPLICATIONS64>¥¥3264combine_sample";
else
    //32bit 環境だった場合
    TARGETDIR = "<FOLDER_APPLICATIONS>¥¥3264combine_sample";
endif;
//***** ここまで

:
:

```

D. 32Bit 用・64Bit 用機能の自動切り替えを行う InstallScript コードの追加

1. スクリプトエディター上部のコンボボックスを [Before Move Data]-[OnFirstUIBefore] に切り替えて、OnFirstUIBefore のコードを追加します



2. OnFirstUIBefore に以下のコードを追加します

```

:
:
:
Dlg_SdStartCopy2:
szTitle = "";
szMsg = "";
//{{IS_SCRIPT_TAG(Dlg_SdStartCopy2)
nResult = SdStartCopy2( szTitle, szMsg );
//}}IS_SCRIPT_TAG(Dlg_SdStartCopy2)
if (nResult = BACK) goto Dlg_ObjDialogs;

***** 追加行
if ( SYSINFO.bIsWow64 ) then
    //64bit 環境だった場合
        //64bit 用機能を選択
        FeatureSelectItem(MEDIA,"Feature_64",TRUE);
        //32bit 用機能を除外
        FeatureSelectItem(MEDIA,"Feature_32",FALSE);
else
    //32bit 環境だった場合
        //64bit 用機能を除外
        FeatureSelectItem(MEDIA,"Feature_64",FALSE);
        //32bit 用機能を選択
        FeatureSelectItem(MEDIA,"Feature_32",TRUE);
endif;
***** ここまで

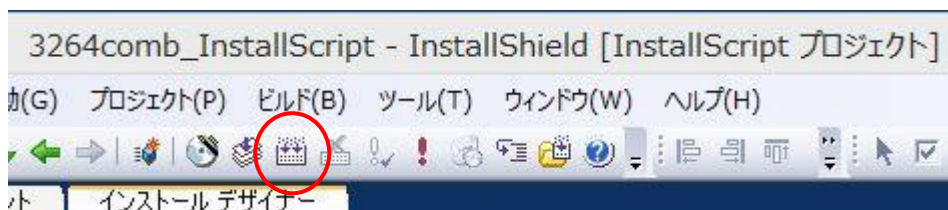
// Added in 11.0 - Set appropriate StatusEx static text.
SetStatusExStaticText( SdLoadString( IDS_IFX_STATUSEX_STATICTEXT_FIRSTUI ) );
:
:

```

E. インストーラーのビルド / 32bit・64 bit 環境での実行

ビルドを行い、実行時の動作を確認します。

1. ツールバーの[ビルド]ボタンをクリックして ビルドを実行します。ビルドは[F7]キーからも実行可能です



2. 生成された InstallScript インストーラーを 32bit/64bit 環境でそれぞれ実行して、動作を確認します (画像は 64Bit 環境で実行した場合)

